

障害者に対して思ったこと

五年一組 阿部 弥生

飯山北小学校

飯山北小学校五年生の桃の里学習のテーマは「いろいろな立場の人と共に生きる」です。
一学期、飯山総合保健福祉センターに行き、高齢者さじ体験をさせてもらいました。特別な服を着て、階段をのぼり下りました。ひざをまげることができず、高齢者の方のつらさが分かりました。

二学期、視覚障害の田中さんが来校され、話を聞かせてくれました。田中さんは、中学三年生の冬、レーベル病を発症して目が少ししか見えなくなってしまうそうです。今まで見えていたものが見えづらくなるなんて、すごく悲しかっただろうと思いました。けどすもうやじゅう道、やり投げなどの、たくさんさんのスポーツに挑戦してきたそうです。そんな田中さんは笑顔で、堂々としていて、輝いているように見えました。過去につらい思い出があり、今も目が少ししか見えずに不安をかかえているのに、常に前向きに挑戦していて、とても感動しました。



私は、ハンディキャップを持っている人々の気持ちや、つらさが今まで以上に理解できたように思います。だから、これから、そういった人を見かけたらしっかりと支えられる人になりたいです。

9月28日
(金)

飯山北第一保育所

合い言葉は「いかのおすし！」



「おやくそく」おぼえたよ!

防犯協会や飯山交番の警察官の方々の協力による、不審者対応訓練を行いました。

子どもたちが園庭で遊んでいる時に、不審者が侵入する設定で行われ、突然の事に驚く姿もありましたが、職員の誘導で慌てずに避難することができました。

その後、遊戯室に集まり安全教室に参加しました。そこでは「いかのお・す・し」という、知らない人についていけない等、自分たちの身を守るための大切な合い言葉について教えてもらいました。子どもたちは「いかのおすし、覚えてよ」「大きな声で、助けてって言う」と、真剣な表情で話を聞いていました。最後にみんなです。

『いかのおすしダンス』も楽しみました。

日々の生活の中で、もしもの時に対応できるように、今後も訓練を大切に、職員自身も観察力や判断力を磨いていきたいと思えます。



いかのおすし～みんなでおどろう♪

9月29日
(土)

「第五回ふじみ園地域交流フェスタ」開催

香川県ふじみ園

交流フェスタは、小学生によるおじよも太鼓で幕を開け、大玉ころがしやパン食い競争など、様々な競技を楽しみました。

飯山中学校の生徒さんによる吹奏楽を聴いたり、婦人会による踊りに参加して、交流を深めさせていただきました。

普段は、大玉など見ることにない利用者が一生懸命に大玉を転がしている姿や、音楽に合わせて体を動かすことに喜びを感じている様子がうかがえました。

利用者が様々なことを体験する中で、生き生きとした姿を見せてくれる喜びを感じるとともに、地域の方々の協力があっての心地よい空間だと強く感じました。また、地域の方々の温かさに触れながら、利用者にとって貴重な時間が過ごせたことを非常にうれしく思い、感謝の気持ちでいっぱいです。改めて地域の方々との交流の大切さを感じました。

今後とも香川県ふじみ園へのご理解とご協力のほど、よろしくお願いたします。

